

“CX”あるいは“C²X”のすすめ

年が明ける前は、新年号は、“哲人・栗山英樹”，“アリスを偲ぶ”，“DX はなんのために必要なのか？”とか“地球沸騰化の時代”とかのメッセージを送ろうと書き始めていましたが、年末・年始に読んだ三冊の本（宇沢弘文著『社会的共通資本』（岩波新書,2003），佐和隆和著『グリーン資本主義』（岩波新書,2010），斎藤幸平著『人新世の「資本論」』（集英社新書,2021,「会員＆役員だより」令和5年1月号で紹介済み）の影響で表題のようになってしまいました。実はこれら三冊のほか、関係のありそうな書籍、トマ・ピケティ著：山形浩生・守岡桜・森本正史訳「21世紀の資本」（みずす書房,2014）も手元にあるのですが、難解で読みこなさきれていませんので除いています。下記では、これら三冊を年代順に並べていますが、読んだ順序は、少し違っていました。佐和著と斎藤著はいずれもすでに既に読んでいて、初読は宇沢著だけでしたので、読み比べたというのが正しい表現です。



宇沢弘文著（岩波新書,2003） 佐和隆和著（岩波新書,2010） 斎藤幸平著（集英社新書,2021）

読み比べた理由は、これら三冊には、陰に陽に“地球温暖化への危機感”が込められているためでした。ただ、斎藤は、“社会資本共有”という点では宇沢と共通していますが、佐和による”グリーン資本主義”には批判的です。斎藤は、SDGs にも懐疑的ですし、”脱成長”を唱えている点では、もっとも先進的（あるいは過激的）とも言えます。

これらの書籍を通読すると、今の日本の首相が“経済，経済，経済”と声高に叫んでいるのは間違っているのではないか？という疑問を払拭できなくなります。“現在の世界の混乱と混沌をもたらしたのは、あくなき経済成長を求める資本主義がもたらした”という斎藤の指摘は正鵠を射ているのではないかと思うのですが皆様はどうお考えでしょうか？（ここまで、敬称を略させて戴きました）。

生活の豊かさの維持と地球環境の維持・保全を両立させることは大変むづかしいことですが、先進国と自認している日本は SDGs に謳われていること（例えば、16. 平和と公正をすべての人に、など）、あるいは、COP 等でグローバルサウスの国々が求めていること（例えば、損失と損害（Loss and Damage）への対応）に適切に、そして、具体的に伝えていかなければなりません。しかもそれは、“遅れてはならない”のです。栗山英樹前 WBC 監督は、作戦の中で常に頭に置いていたことの一つとして、“遅れない”ことがあったと年末の TV 番組で再度聞きました。その意味で、いまはまだ余裕があると思われる日本が、気候変動に起因する事象で損失と損害に悩まされているグローバルサウスの国々をサポートするのに遅れをとってはなりませんし、後れてはなりません。なぜなら、日本は、今は“助ける国”の仲間入りしていますが、いつ、“助けられる国”になるか予想がつかないからです。こういう準備こそが“想定外を想定する”事前対応（あるいは、予防保全）に属することだと思います。

ここで言及した三冊を筆者なりに総括することによって、いま世界が遭遇している混乱と混沌の根源には、“気候変動”にあるという思いに駆られます。LIRRI では、令和 3 年度と 4 年度に続けて茨城大学からの委託で、「S-18 プロジェクトの研究成果及び発信に対するニーズに関する調査委託業務」（令和 3 年度）、「気候変動適応策オプションの分類に関する調査委託業務」（令和 4 年度）を実施してきました。また、令和 5 年度には、第 15 回環境地盤工学シンポジウム（熊本市において開催）と国際会議 CREST 2023（福岡市において開催）において LIRRI における気候変動対応策の取り組みを紹介してきました。令和 6 年度は、茨城大学と連携して、前記の委託業務の成果を研究発表する予定です。これらの業務は、気候変動対応策の具体的な取り組みとしては緒に就いたばかりのものです。今年度はここを出発点として混沌とした社会変革の一助に繋がる自主研究を開始します。

上記の事情を踏まえて、LIRRI におけるこのようなプロジェクトを“クライメート・チェンジ・トランスフォーメーション（Climate Change Transformation: CX or C²X）プロジェクト（略して、CX プロジェクト or C²X プロジェクト）と名付けて会員の皆様とご一緒に自主研究に取り組んでまいります。どうぞご協力ください。

このことの手始めとして、「メルマガ令和 5 年 12 月号」でご案内しましたように、来る 1 月 24 日に「気候変動適応策に関する調査業務成果報告会」を開催致します。プログラムの概要は以下の通りです。

- 趣旨説明 受託業務の背景、内容と成果の概要：安原一哉（代表理事）
- 「自然災害・沿岸域」と「水環境・水資源」分野における実情：足立雅樹（みらい建設工業㈱）
- 「農業・畜産・林業・水産業」と「自然生態系」分野における実情：浅田寛喜（熊本大学）
- 海外事情からみた日本の適応策の位置づけ～国際比較～（仮題）：山田岳峰（鹿島建設㈱）
- 将来展望 & 自由討論：安原一哉（前述）

（総合司会は、岸田隆夫副代表理事）

お申し込みは、google form (<https://forms.gle/g3vZg1zykq83422F8>) からお願い致します。たくさんの皆様のご参加をお待ちしております。

“散歩道 寒さこらえて 咲いている
名は何とぞと 声かけており”
（代表理事 安原一哉）